

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学Ⅴ-B②(癌)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部3年	学期及び曜時限	後期	教室名	901教室
担 当 教 員	安丸 直希				
実務経験と その関連資格	理学療法士として総合病院や介護老人保健施設にて6年勤務。主に内部障害領域における急性期から生活期までのリハビリテーション、がん終末期におけるリハビリテーションに従事。健康科学修士、呼吸認定理学療法士、循環認定理学療法士、3学会合同呼吸療法認定士、心電図検定3級を取得。また、がんリハビリテーション研修会修了。日本理学療法士協会会員、日本心臓リハビリテーション学会会員、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員、日本呼吸理学療法学会一般会員、日本循環器理学療法学会一般会員、日本がん・リンパ浮腫理学療法学会一般会員、日本栄養・嚥下理学療法学会一般会員。				
《授業科目における学習内容》					
代謝疾患について、疫学、予後、病因、症候について説明できる。検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる。がんの疫学・病態・医学的治療・骨転移・緩和ケアについて学ぶ。リスク管理として医学的治療の副作用や骨転移患者への理学療法プログラムの立案ができるようになる。がんリハビリテーションの時期を理解して評価・治療が行えるようになる。					
《成績評価の方法と基準》					
感想文5%、出席率5%、課題・レポート90%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
配布資料					
《授業外における学習方法》					
配布資料に沿った自己学習					
《履修に当たっての留意点》					
がん患者は増えてきています。専門病院以外でもがん患者の対応を行う機会がありますので、時期に応じたがんリハビリテーションを行えるようになってください。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	がんの疫学・概論を理解する。	配布資料		
	各コマにおける授業予定	がんの疫学・概論について学ぶ。			
第2回	授業を通じての到達目標	がんの病態・医学的治療を理解する。	配布資料	前回の復習	
	各コマにおける授業予定	がんの病態と医学的治療、その副作用について学ぶ。			
第3回	授業を通じての到達目標	がんのリハビリテーションを理解する。	配布資料	前回の復習	
	各コマにおける授業予定	がんのリハビリテーションについて学ぶ。			
第4回	授業を通じての到達目標	骨転移を理解し適切な対応ができる。	配布資料	前回の復習	
	各コマにおける授業予定	骨転移を有する患者へのリハビリテーションについて学ぶ。			
第5回	授業を通じての到達目標	がん患者の評価と治療プログラム立案ができる。	配布資料	前回の復習	
	各コマにおける授業予定	がん患者を想定して評価を行い、治療プログラム立案を経験する。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 6 回	授業を通じての到達目標	がん患者の評価と治療プログラム立案ができる。	配布資料	前回の復習
	各コマにおける授業予定	がん患者を想定して評価を行い、治療プログラム立案を経験する。		
第 7 回	授業を通じての到達目標	がん患者における緩和ケアを理解する。	配布資料	前回の復習
	各コマにおける授業予定	ゲームを通じてアドバンス・ケア・プランニングを体験する。		
第 8 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 9 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 0 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 1 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 2 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 3 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 4 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 5 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			